



長野高校
2 学年
SGH 通信

有隣

緑のファイルにまとめましょう
第 33 号
2017 年 8 月 23 日 (水)
26 日 (土)

個人研究発表の振り返りとして・・・

自分のレポートや発表について、次の点について振り返り、班の中で指摘しあうことが大切です。ここでの話し合いにより、課題研究発表会での発表がより良いものになります。

★「仮説」と「予想」を取り違えてないか

「仮説」には（二次情報による）調査が不可欠。

「予想・思いつき」→ 調査 → 「仮説」

★ 思考停止状態になっていないか

→ 「観光客を増やそう」「収益を上げよう」「医者を増やそう」が出発点になっている。

“右肩上がり”でありさえすればいいのか？それがなぜ必要なのか？

それが誰をどう助けるのか？ それによる弊害はないのか？

どんな社会的価値の増加に繋がるのか？

本日の流れ（後半）と次回に向けて・・・

(3) 班研究のまとめ

上記の「振り返り」を大切に、班の研究としてまとめ、発表の準備をしましょう。

(4) 「プレゼンテーション構成シート」の作成

パソコンを用いて p p t（または Google スライド）を作る前、班内で構成について十分検討をし、「プレゼンテーション構成シート」を用いて下書きを作成する。

9/5(火)、6(水)の授業または、それ以前に班担当の先生からの指導を受ける。

次回以降、班員一人 1 台のパソコンを用いて、プレゼンシートの作成に取り掛かれるように、シート作成の分担をする。

《授業後から次回の授業の流れ》

(5) 「プレゼンテーション構成シート」を班担当の先生を訪問して、指導を受ける。 できるだけ 9/5, 6 の授業で指導してもらえるように、下記のアポを忘れずに！

《先生方のアポイントメントを取っておくこと！！》

授業内に班担当の先生から指導を受けるために、授業内に先生を訪問する時間を決めておく。5月初めに配布した「課題研究テーマ一覧」には訪問可能時間の目安が記載されていますが、出張等により先生方が不在の場合がありますので、必ず事前にアポをとっておくこと。なお、授業内で班担当の先生が不在の場合は、休み時間放課後等でご指導いただくよう連絡をとりましょう。9/5,6 の授業の前でも構いません。

(6) 一人 1 台のパソコンにより、それぞれが分担したプレゼンシートを作成する。

パワーポイントまたは Google スライドにより、一人一人の担当部分のプレゼンシートを作成する。それらを結合させて、書式は最後に統一させれば良い。

(7) 発表原稿を作成する。

プレゼンシートを作る段階で、ある程度原稿も想定していくことが望ましい。

何度も書きますが・・・発表会までの予定

9/5, 6 (プレゼンシート及び原稿作成) 10/10, 11 (発表リハ) → **10/12 (発表会)**

課題研究発表会の表彰について

今年度の 2 学年課題研究発表会は前半を分散会（予選）としてすべての班がプレゼンテーションを行い、後半は全体会（決勝）として予選を勝ち抜いた班から選抜された 3 班(予定)にプレゼンテーションを行っていただきます。さらに、決勝進出班の中からベストプレゼンテーショングループを決定したいと考えています。

プレゼンに係るアンケートについて

本日の課題研究発表会のプレゼンに係るアンケート用紙を配布します。班内でよく話し合い、**9/5(火)、6(水)の総合授業で提出をしてください。**

① 発表言語について

台湾研修旅行での英語プレゼンの練習として、将来のための経験として、「英語」でのプレゼンを経験してみましょう。なお、英語プレゼンは発表の全部でも、一部だけに取り入れても構いません。

② 特別プレゼン指導の希望調査

校長先生、教頭先生など本校の先生方による特別指導を実施します。これにより、班担当以外の先生方から、プレゼンや研究のまとめ方など班担当の先生とは異なる角度からの指導を受けることができます。ただし、授業以外の時間での指導となります。

③ 課題研究発表会タイトル

班のテーマや課題が伝わるようなタイトルにしましょう。通知表などの皆さん個別の書類にも使われます。

④ 課題研究の紹介文（40字程度）

10/13(木)の課題研究発表会のプログラムに掲載します。

英語発表に挑戦しよう！ ～ 対象を意識した要約力を身につけよう！

2年次の課題研究は、「世界から見た NAGANO のグローバル戦略」です。10月12日の課題発表会は、聞き手は日本語が理解できる人ばかりですが、発信対象として、台湾の高校生など海外の人も意識してみましょう。具体的には、全体の流れが日本語のプレゼンでも、**①スライドでの英語併記を心がける。②英語の要約を入れる。**という2点を心がけてください。

SGH 課題研究の中での発表会の位置

「有隣」No. 32 裏面参照

2年間の地域課題研究の集大成であると同時に、台湾研修、論文作成を経て3年次の善光寺グローバルサミットに集約されるグローバルな広がりを持った研究への結節点と位置づけられる。

グローバルな広がりを視野に入れていく、という意味で、できる限り英語を使用し、また、講師からは、どのような要素を入れることでグローバルに通用する研究になっていくか、のアドバイスを受ける。

日本語を母国語としない人に「だいたいのこと」を伝えることは難しいが、大事なことです。自分の研究を**何のために、誰に向けて発信するか**によって、「だいたい」は変わります。一般的に「要約」と呼ばれるものです。テストでは、客観的な事実を読み取れていることを示すために、採点者への発信として「要約」を書きます。プレゼンや論文では、研究してきた内容を正確に伝えるため読み手、聞き手に向けて「要約」を発信します。特に「誰に向けて」を意識してみてください。フィールドワーク先に研究内容を伝える、学校の先生に欠席の理由を話す、クラブのミーティングで仲間に自分の考えを話す、SNS で潜在的な顧客に向けて話す・・・いろいろな他者を想定して、だいたいの説明としての「要約」を考えてください。

ある程度の英語力がある君たちなら、話す対象の顔を思い浮かべながら考えれば、どんな風に英語で表現するかがわかるはずです。対象を考えた要約力を身につけましょう。英語併記と英語要約、がんばりましょう。

ちなみに、**個別課題の英語要約は、台湾でのメインプロジェクト内でも使用します。**（序盤のアイスブレイクとしての自己紹介で使用）何度も話す練習をして、自然に話せるようにしましょう。そこで、今回の発表会では、以下のような発表ができるか否かを是非検討してみてください。

- ・発表原稿、スライドとも英語
- ・発表原稿、スライドのどちらかを英語
- ・発表原稿、スライドの一部を英語 等

* 善光寺グローバルサミットでの、最初と最後に summary を英語で伝える手法も効果的。